



# 学ぶ楽しさいっぱい

美馬小学校



美馬小学校学校だより「校長室の窓から」令和6年度第3号 文責：三橋孝史

## 毎週火曜日「読書の日」について

「これ読んだら、チョコレート博士になれるわ！」1年生の教室から、元気な声が聞こえてきました。覗いてみると、男の子がチョコレートの本を抱えています。どうやら図書室で借りてきた直後のようです。6月18日から、火曜日を「毎週火曜日『読書の日』」とし、原則として他の宿題を出さず、家庭での読書を推奨しています<sup>1</sup>が、お子様のご家庭での様子はいかがでしょうか。

この「読書の日」は、次のようなことを主なねらいとして導入しました。

### 受け身の学習から主体的に取り組む学習へ

物事に受け身ではなく、主体的に取り組むためには、自ら決めることができる、自己決定の場面が必要です。特に受け身になりがちな家庭での学習をより主体的な学びにしていくために、中学年から高学年では自分で課題を決めて取り組む「自主学習」を取り入れるなど、工夫を凝らしているところです。

読書には、何を読むかに始まり、どのくらいの時間をかけ、どこまで読むか、ここは繰り返し読むか、あるいは読みとばすかなど、自己決定の場面がたくさんあります。今回読書の日を設けたのは、読書にゆったりと親しむ時間をとる中で、自分で決めたことに取り組む経験を積み重ねることで、その姿勢を認め伸ばしながら、読書に限らず学習全般に主体的に取り組む姿勢を育てたいと考えたことが大きな理由です。



「どれにしようかな。」読書の日、持って帰る本を選んでいます。

また、あえてドリル型の課題を出さない日を設けることで、ドリル学習の大切さにも気づき、自分の力を高めるために必要な学習に進んで取り組もうとする姿勢にもつながって

いくことを、少なからず期待しています。

なお、時間に余裕がある場合には、読書だけでなく自分で決めた課題に取り組むことも大歓迎です。ご家庭でも、主体的に学習に取り組む姿が見られた場合には大いに賞賛するなど、ご支援いただければ幸いです。

### 読書を家庭での過ごし方の一つに

読書と学力との関連については、全国学力・学習状況調査において、家にある本の冊数が多い児童、読書が好きと答えた児童ほど、教科の平均正答数が高いという結果が報告されています<sup>2</sup>。また、東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所の共同調査（2023年）では、読書時間の長い子供は、自分の能力について理解や思考、表現などが得意と答え、文化体験や調べる活動を多く行なっているという結果が示されました<sup>3</sup>。

これらはあくまで相関関係であり、読書をするると学力が身につく、という因果関係を証明するものではありません。しかし、同調査での個人変化の追跡（小1から中2）によると、小学校低学年の段階で読書時間の長い子供は、その後も継続して多く読書をする傾向があるとし、読書の学力への効果を期待する前提として、まずは読書時間を確保し、読書習慣を身につける必要があることを示す結果となっています。「本を読みたい」という子供の気持ちをひき出すため、学校ではボランティアの方の読み聞かせなど、様々な読書推進の活動を行っています。読書の日を契機に、ゲームやネット動画など様々な誘惑はありますが、「本でも読んでみようかな」と、家庭での過ごし方の一つとして進んで読書を選択する機会が増えることを願っています。

### 子供と向き合う

担任は、毎日宿題の提出状況の確認や答え合わせ、間違った問題に再度取り組ませるなど、休み時間や空き時間を使って宿題の整理を行っています。今回思い切って読書以外の宿題のない日を設けたことで、宿題の整理のない日が生まれました。これも読書の日の利点の一つと捉え、目の前の子供たちにしっかり目を向け、話に耳を傾けるなど、子供に向き合う時間に充てたいと考えています。

火曜日「読書の日」、ご協力よろしく申し上げます。

1.毎週火曜日「読書の日」について（お願い）をご参照ください。

2.令和5年度全国学力・学習状況調査報告書 国立教育政策研究所

3.子どもの読書行動の実態 ベネッセ教育総合研究所